Keio University
1858
CALAMVS GLADIO FORTIOR
慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社ウエノ

2008 年 6 月 26 日の『日本経済新聞』は「ウエノ、コイル製造自動化、24 時間稼動、国内に生産回帰」と題して、大略次のように報じた。

「コイルメーカーのウエノは自動コイル巻きロボットを開発、今月から 24 時間稼動体制に入った。コイル製造は典型的な労働集約産業で、自動機械を使って本格量産するのは業界ではじめてという。同社は生産活動をほぼ全面的に中国にシフトしているが、機械化により品質･コスト両面で国内生産の利点が大きいと判断。中国の人件費上昇も見込んで生産戦略を大きく転換し、今後「国内回帰」を強力に進める。・・・直径数センチのリングに銅線を何重にも巻き付ける工程は、これまで人手作業に頼ってきた。人手では 1 個当たり約 5 分かかるが、最新鋭の機械なら約 30 秒に短縮。24 時間稼動なので生産効率は実質 30－40 秒に高まる計算だ。同社は安い労働力を求めて生産拠点を中国に移し、現在月産 550 万個のほぼ全量を中国に依存している。国内で機械生産すればコスト面だけでなく、①品質の向上･均一化②納期の短縮③輸送費の削減④銅線の廃材ロスの低減など多くのメリットが見込め、同社では業界の常識を覆す「コイルの生産革命」と位置づけている。・・・同社はエアコンやパソコンなどに使われるノイズ防止用コイルが主力で、リング状のトロイダルコイルでは国内シェア首位。フューチャーベンチャーキャピタルなどから投資を受けており、2011 年以降の株式公開を視野に入れている。」

株式会社ウエノは、山形県庄内地方の農家の長男として生まれた上野隆一氏が 1982 年に設立したトロイダルコイル（リング状コイル）の専業メーカーであった。農業に従事していた上野氏が夫婦で巻き線の内職仕事の組織化によって成長し、その後中国に巻き線作業を移し、現在大連、広東省東莞など 10 数ヶ所の委託工場で 2,500 人の労働者が働いている。株式会社ウエノの資本

本ケースは東北公益文科大学 大学院教授 石田英夫が作成した。ケースは経営管理の適切あるいは不適切な処理を示すものではない。ケースの作成にあたっては、株式会社ウエノ社長 上野隆一氏、ほか経営幹部・社員・関係者のご協力をいただいたことを記し、謝意を表したい。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は http://www.kbs.keio.ac.jp/へ。 慶應義塾大学ビジネス･スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 石田英夫（2009 年 1 月作成）